

【町長】

<p>通告順</p>	<p>1</p>	<p>質問 議員</p>	<p>伊藤議員</p>
<p>質問 項目</p>	<p>町長選挙に向けての考えは</p>		
<p>質問 内容</p>	<p>令和元年5月に町民の期待を一身に受け横山町政がスタートしてから4年を迎えようとしています。</p> <p>その間、持続可能なまちづくりに加え、子どもたちが夢と希望を持ち、誇りを持てるふるさと創造をオール沼田の掛け声とともに推進し、取り組まれてきました。</p> <p>突然の新型コロナウイルスの発生に伴い、感染拡大の防止策を講じながら、コロナ禍の福祉向上対策や町の活性化事業を積極的に取り組まれたことは、町民に高い評価を受けていると感じています。</p> <p>高穂スキー場の更新や高齢者住宅の建設、まるごと自然体験プロジェクトなど公共施設への投資や関係人口拡大に向けた取り組みをされてきた一方、JR留萌本線存廃の議論で町長は断腸の思いの中、決断され、ひとつの区切りとして廃止が決定しました。</p> <p>この4年間は、横山町政の基盤づくりの期間であったと考えています。その基盤をもとに町を活性化させ、新たな公共交通体制の政策を打ち出すのが、横山町政の責務であり、町民が期待する所だと考えています。</p> <p>任期満了に伴う町長選挙に、町の発展のため続投を望む声が多く聞かれるが、4月の町長選挙に対しての考えを聞きたい。</p>		

【町長】

<p>通告順</p>	<p>2</p>	<p>質問 議員</p>	<p>畑地議員</p>
<p>質問 項目</p>	<p>自然学校を直営で運営するねらいは</p>		
<p>質問 内容</p>	<p>一般行政報告によると、令和5年度からオープンする自然学校については、専門的人材が育成されるまで直営管理して事業を行うとあった。6月の全員協議会では計画説明を受け、指定管理を前提に進めているとの報告があったばかりであるが、方針を変えた理由の中に人材育成などがあるなら、当初からハードルを上げすぎて計画立案をしていたのではないか。3年間の準備期間と合わせて進捗状況に遅れが生じていないのか、そして地域連携が出来る環境整備が進んでいるのか聞きたい。</p> <p>町長</p> <p>① 森あそびサポーターに登録した方への周知は現在も定期的に行っていたのか。</p> <p>② 年間スケジュールで示したアクティビティでの集客数とリピーター数は何人いたのか、SUPやサイクリングは実施出来たのか。</p> <p>③ 人材育成を含め、町の直営によって計画している事業内容と予算組に変更点はあるのか。</p> <p>④ 次年度からほろしん温泉の指定管理が変わる予定ですが、グランピングが出来るプライベートキャンプ場とオートキャンプ場の関係は、直営と指定管理に分かれることとなります。顧客層の住み分けは出来るのか。</p>		

資料1 自然学校ロードマップ (6月全員協議会資料産業創出課より)

大項目	中項目	2022年度											2023年度	2024年度			
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2			3		
運営体制の確立	現地コーディネーター、イノベーターの育成	沼田の自然勉強会・アウトドアスキル勉強会・ノマドワーカーコラボ研修会											現地コーディネーターを核とした組織運営の開始	新体制の検証 コンセプトの再確認 協力隊卒業者の雇用 広報戦略の再設定			
	運営体制の構築	運営に関わるOJT研修											町内外理事によるNPO法人での事業実施・運営開始				
事業の検証	受託事業	指定管理事業											初年度受託事業の開始	実施事業の検証と再構築 新規事業の企画立案 物販販路拡大 ノマドワーカーによる事業の実施 コンセプトの再確認			
		受託事業													定着化を目指した事業の運営		
		助成金事業														法人での協力隊雇用開始	
		協力隊事業															事業実施体制の構築
		商品開発															
	物販事業	ECサイトの構築											マルシェの実施				
		マルシェ													事業全体の検証・運営体制の構築		
		ノマドワーカーの誘致														ワーケーションの開始	
	関係人口の創出	ノマドワーカーの受け入れ・ノマドワーカーとの事業実施											ノマドワーカーによる事業実施				
		ワーケーションの実施													コンセプトの再確認		
新規事業											ほたる館との連携事業開始						
新規事業	ほたる館・スキー場との連携事業											スキー場との連携事業開始					
	町民向け事業																
フィールドの確保	森林の活用	里山畜養											町有林の活用と商品生産の継続				
		森林整備												特産品の販売開始			
		新原木の確保															
	施設の活用	スマートモジュールの活用											宿泊業としてのモジュール活用				
		スマートモジュールの整備												プライベートキャンプ場の活用開始			
ほたる学習館の活用											宿泊施設増設						
プライベートキャンプ場の活用												運営体制の検証					
施設整備																	

資料2 自然学校ロードマップ (6月全員協議会資料産業創出課より)

自然学校 交流・関係人口創出・稼ぎの流れ(イメージ)

2022.6.16沼田町産業創出課



